

アンダルシアの犬 (1928)

UN CHIEN ANDALOU

メディア 映画
ジャンル アート
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 17分
初公開日 不明

【解説】

今みても感嘆する他にないシュールレアリズムの映像詩。L・ブニュエルの凄い所はこのイマジネイティブな実験精神を失わず、メキシコ時代の通俗作品、後期の“アンチ”カトリシズムの不条理劇と、果敢な映画創造を貫いたことだ。ダリが共同脚本を手がけた本作は全く論理的脈略はなく、あまりにも有名な、眼球を剃刀で真二つにされる女、路上に切り落とされた手首をみつめる女装の男、痙攣する掌を這い回る蟻の群れなど、夢魔的イメージが全篇を支配している。そこに何を讀みとるかは観る者の自由。ただ、やがて内戦状態に突入していく20年代の終わりのスペインで作られた点は何かを教唆するだろう。

【クレジット】

監督	ルイス・ブニュエル	Luis Bunuel
製作	ルイス・ブニュエル	Luis Bunuel
脚本	ルイス・ブニュエル サルバドール・ダリ	Luis Bunuel Salvador Dali
撮影	アルベール・デュベルジャン	
出演	ピエール・バチェフ シモーヌ・マルイユ ハイメ・ミラビエス サルバドール・ダリ ルイス・ブニュエル	Pierre Batcheff Salvador Dali Luis Bunuel